

学校へ行こう

①福島高校生と一緒に朝のあいさつ活動。 ②魚を教材にふるさとを学ぶ「魚しよく」。 ③くしま学でJA大東を見学。 ④くしま学で本城干潟の貴さを体験。



なるほど！医療講座

著：串間市民病院 内科医師
中西 千尋
なか にし ちひろ

インフルエンザ

新

年あけましておめでとございませぬ。地球温暖化と言われても冬はやはり寒いものです。そして毎年この季節になると世間を騒がせるのが、インフルエンザです。一昨年はついに新型インフルエンザが発生し世界中にパニックを引き起こした訳ですが、新型でなくとも季節性インフルエンザも十分怖い病気です。日ごろからしっかりと手洗いを励行して、感染の予防に努めてください。

今回は新型インフルエンザ（以下「新型」と記載）について、簡単に書いてみたいと思います。
新型インフルエンザ

インフルエンザウイルスにはA型、B型、C型の3つの型があります。このうちヒトに感染して流行するのはA型とB型で、過去の人類の歴史において大流行を起こしてきたのはA型です。A型はヒトだけでなく鳥や豚、馬などさまざまな動物を宿主としており、さらに多数の亜型も存在するため非常に変異を起こしやすいのです。いろいろなウイルスの亜型が複雑に交雑して遺伝子変異を起こし、ヒトに感染するようになったもの、それが新型という訳です。新型であるゆえ、ほとんどの人は免疫を持っていません。そのため感染が大規模かつ急速に広がりやすく、健康被害も起こしやすい訳です。

これまでに明らかになった事

新型インフルエンザについて、WHO（世界保健機関）など世界中でさまざまなデータが集められ、いくつかの特徴が明らかになってきました。

一つは、北米のブタインフルエンザウイルスが起源であること。実は当初、新型の流行が起こるとしたら高病原性鳥インフルエンザ（H5N1）が起源のウイルスによると予測されてきました。このH5N1はこれまで鳥からヒトへ感染した場合、約60%と高い致死率が報告されてきました。ヒトからヒトへの感染はなかったためパニックは起こっていませんが、これがもしヒトに感染する新型になったら、単純に考えても世界の人口のうち6割が死亡する事になります。一昨年新型が発生した際、世界中がパニックに陥った理由がここにあります。幸い病原性の低いブタインフルエンザウイルスが起源でしたので大事には至りませんでした。

新型に関して、もう一つ興味深いデータがあります。特に日本においては、新型による死亡率が米国やカナダ、メキシコなどと比較して非常に低かった（人口10万人に対して0.15人）というデータが出ています。一番死亡率が高かった米国と比較すると30分の1未満です。この理由として、わが国では抗ウイルス薬での

友だちが好き、学校が好き、自分が好き。

自分の素晴らしさ、周りの素晴らしさに気付く、自己肯定感を持った児童育成を目指しています。

今回紹介するのは福島小学校（吉鶴信男校長。全校児童456人、職員30人の小学校です。福島小学校では「友だちが好き」、学校が好き、自分が好き」を基本方針に、児童たちの自己肯定感を育てようとして取り組んでいます。そのために「授業を大切にしたい」と考え、児童たちにじっくり考えさせるとともに、友だちの意見にも関心を持たせ、一つの答えをみんなで考える、という授業を行っています。

小学校間の連携も行っています。月に1回程度、笠原小学校の4年生以上の児童が福島小学校を訪れ、一緒に授業。串間市ならではのセレクト算数に取り組みます。また、鑑賞教室でも有明小学校や金谷小学校、笠原小学校の児童が参加するなど、他校児童と交流を深め、中一ギャップ解消の役割も果たしています。

卒業前の伝統行事



ロマンウォーク

福島小学校6年生が卒業前に行う「ロマンウォーク」。JR日南線油津駅から福島小学校までの約32kmのウォーキングに挑戦します。友だちと励まし合いながら歩き、子どもたちは、いたわる心やあきらめない心、挑戦する心、思い出を作るのです。

「ロマンウォーク」は6年生PTAの方々が実行委員会を結成し開催。歩行時の安全確保や昼食の準備などで子どもたちをサポートするほか、子どもたちと歩き一緒に思い出を作ります。今年も1月29日に開催予定。懸命に歩く子どもたちに、声援をお願いします。

治療や感染予防・感染拡大予防のため、さまざまな対策が早期から適切にとられた事が挙げられています。

ただし、最初に患者が発生したメキシコは貧困層が多く、病気にいかってもなかなか医療機関を受診できないという社会背景がありました。かつ、自国には新型かどうかを診断できる機関がなかったため米国に検査を依頼していたという事情もありました。そのため新型の発症から診断確定までタイムラグが生じ、感染拡大を早期に食い止められなかった結果、これらの国では死亡率が高くなったとも考えられます。もし、最初の患者が日本で発生していたら、また違った結果になっていたかもしれません。

感染予防・感染拡大予防の徹底を！
とはいえ、我々日本の国民は基本的に健康に対する意識が高いという事も、死亡率を低下させた大きな理由の一つであるのは間違いないでしょう。

市民の皆さんも、手洗い・うがいを励行し、マスクを着用するなど、感染予防に励んでください。そしてもし感染してしまった場合は早めに治療を受けると同時に、周囲の人へ感染を広げないような気遣いも忘れないでください。それでは、今年も良い1年でありませうように！